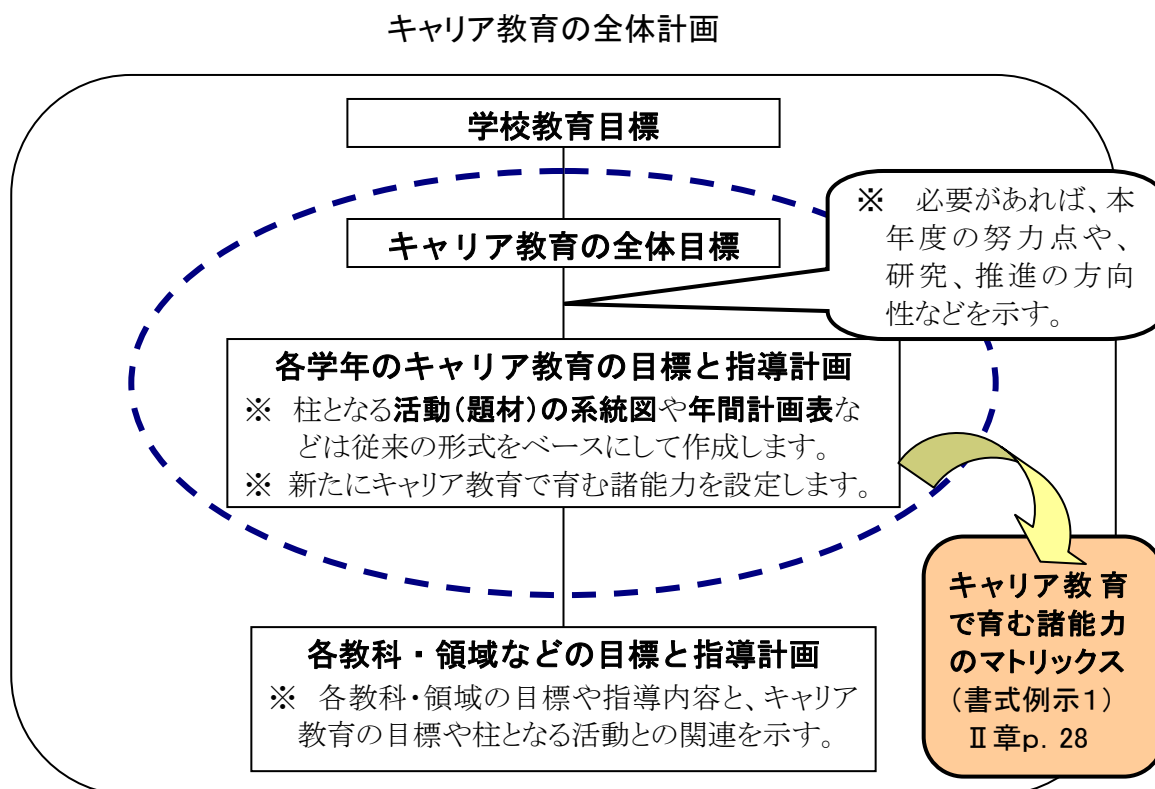


POINT 1 キャリア教育を教育課程に位置付けて、学校教育全体で展開する

学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた小学校段階からの組織的、系統的なキャリア教育の推進に取り組むためには、教育課程への位置付けとその工夫が求められます。

中学校や高校では、これまでの進路指導計画を、「能力や態度」の育成を軸としたキャリア教育の指導計画に移行することが可能と考えられます。具体的には、諸活動の目標にキャリア教育で育む諸能力を設定して、計画、実践、評価の一体化を図ります。

■ キャリア教育の全体計画(全体構想)の作成と展開



- ※ 児童生徒の自己評価を重視して、活動の振り返りを促す。
- ※ 次の実践につなげたり、今後の計画の改善に役立てたりする。

- ※ 実践にあたっては、目標に設定した「能力や態度」の育成を主眼として指導・支援する。
- ※ 評価にあたっては、目標に設定した「能力や態度」に着目するだけでなく、児童生徒の「能力や態度」の変容を幅広くとらえる必要がある。

解説6 キャリア教育で育む諸能力の設定

全体計画を作成するためには、まず、全体の目標や各学年の目標に、育成すべき能力や態度を設定する必要があります。このためには、次に示すようなキャリア教育で育む諸能力のマトリックスを作成すると、具体的な能力や態度の育成という観点で、現在の進路指導の諸活動相互の関連、あるいは各教科や他領域との関連付けを図ることが容易になります。

■ キャリア教育で育む諸能力のマトリックス(書式例示1)

キャリア教育の全体目標 ※ 従来の学校進路指導目標をベースに設定 ※ 必要があれば、キャリア教育推進のテーマを設定する。						
学 年 ※ 中高一貫教育校では適切に区分を設定する。				第○学年	第○学年	第○学年
学年のキャリア教育の目標 ※ 発達課題や柱となる活動に着目して設定する。						
実践の柱となる活動 ※ 体験的な活動のように、複数の能力を伸ばすことが期待される学校全体の取組を示す。				(中学校の例) ・職場体験 (高校の例) ・大学の公開講座		
育成を目指す諸能力 (職業的(進路)発達に関わる諸能力)				具体的な能力や態度(意欲も含む)		
領域	領域説明	能力	能力説明			
(例) 人間関係形成能力		(例) 自他の理解能力				
		(例) コミュニケーション能力				
(例) 情報活用能力		(例) 情報収集・探索能力				
		(例) 職業理解能力				

※ 育成すべき能力や態度やその具体例については、p. 23、24の表に示した項目などを参考にして設定します。

※ 必要があれば、領域を追加したり、再編成したりします。



○ 各教科・領域との関連

※ 従来の計画と同様に関連する内容を示します。
※ 各教科・領域の計画に新たに目標を追加する前に、まず、従来の目標をとらえ直して、キャリア教育で育成を目指す能力や態度と関連の深い項目を選び出して示します。

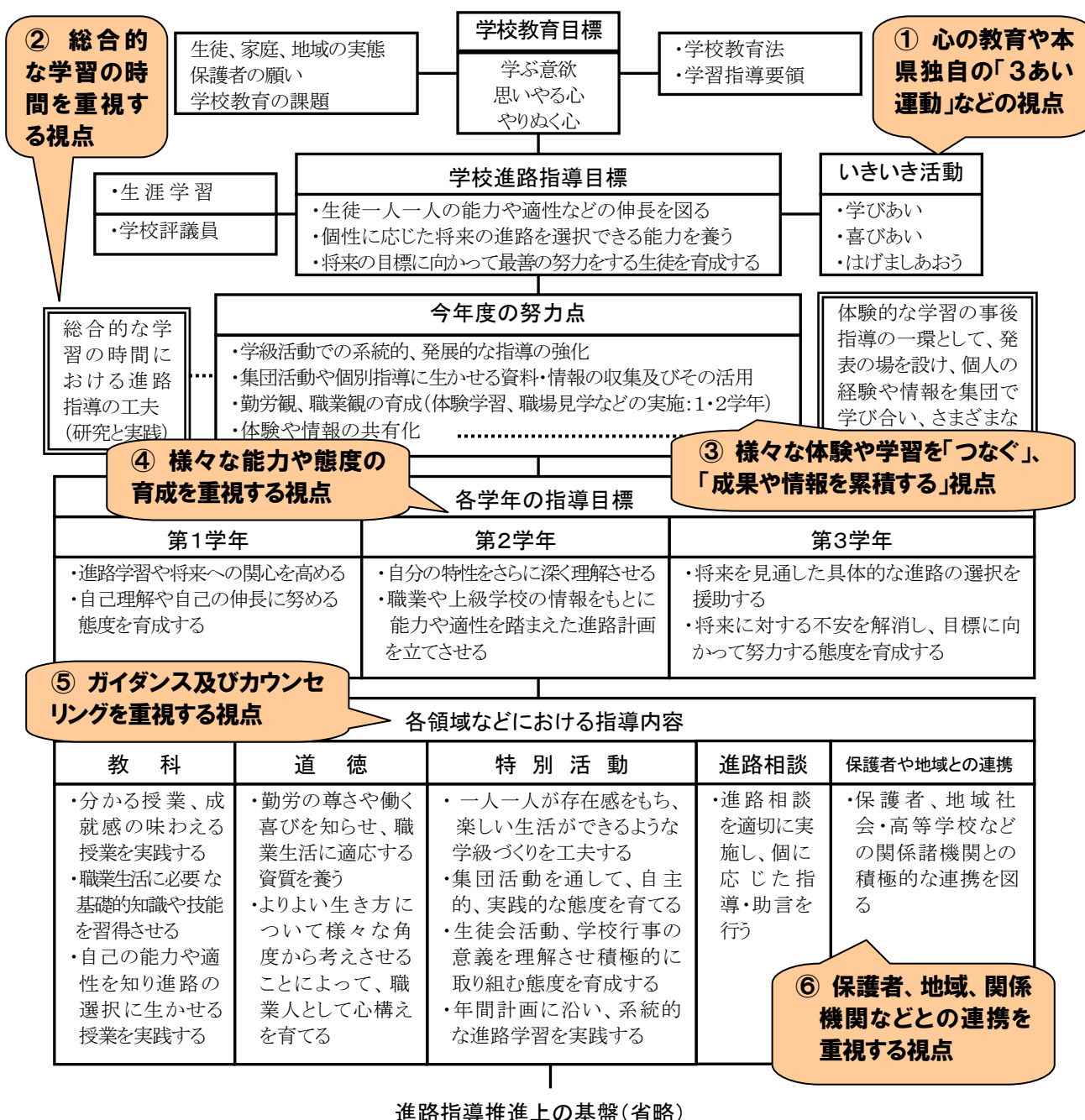
事例紹介

ここでは、中学校の進路指導計画の形式を例にして、キャリア教育の指導計画作成の考え方を説明します。

事例8〔中学校〕現在の進路指導計画からキャリア教育の視点を読み取る

この中学校の例のように、現在の進路指導計画をキャリア教育の視点で見直すことができます。

■ 進路指導の全体計画(全体構想)について



■ 進路指導の全体計画(全体構想)を見るポイント

※ 前ページに示した全体計画の①～⑥のそれぞれの視点について説明します。

① 心の教育や本県独自の「3 あい運動」の視点

社会性や人間関係形成能力の育成の面からも、キャリア教育と共通する方向性をもった視点と考えられます。

② 総合的な学習の時間を重視する視点

総合的な学習の時間で育成しようとしている能力や態度の多くは、キャリア教育においても重視されます。総合的な学習の時間で育てようとする資質や能力と、キャリア教育で育成を目指す能力や態度とを比較検討したり、関連付けたりすることが大切です。

③ 様々な体験や学習を「つなぐ」、「成果や情報を累積する」視点

「キャリア」とは、個々人に累積されていく経験や能力全体を意味するものです。それぞれ別個の体験や学習、情報を生徒がつなげられるように、諸活動を体系化することが求められます。

④ 様々な意欲や能力や態度の育成を重視する視点

キャリア教育で育成を目指す能力や態度を目標として位置付けます。また、評価の観点として、より具体的な項目を設定する必要があります。

⑤ ガイダンス及びカウンセリングを重視する視点

キャリア教育では、生徒指導や学習指導と連携して、学習や集団へのよりよい適応や、科目や進路の選択及び決定を支援するために、ガイダンスならびにそれを相補う関係にあるカウンセリングの充実が求められます。

なお、各教科、領域と進路指導の関連を機能させるには、それぞれの活動が本来もっているねらいを確実に達成していくことが不可欠です。

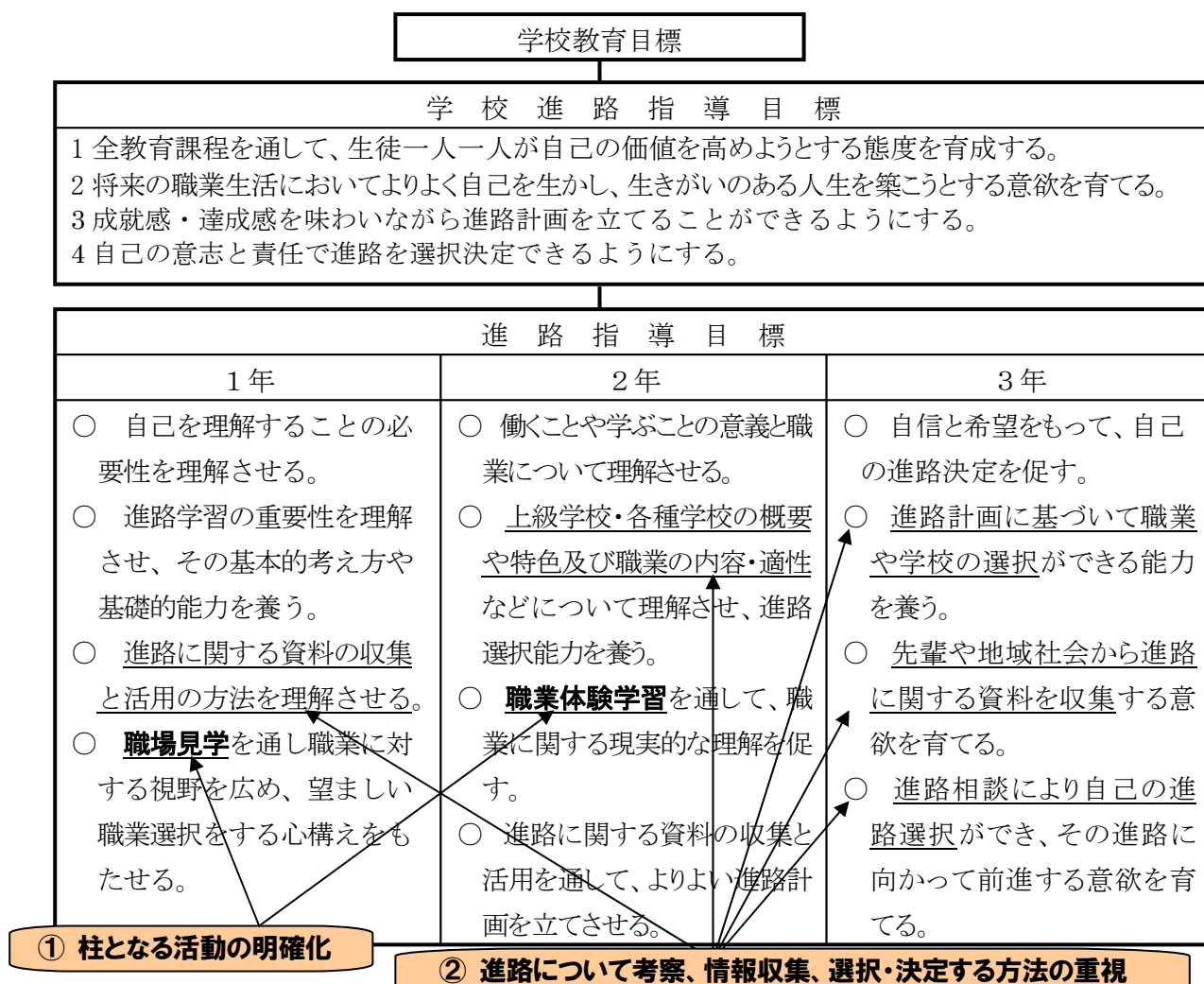
⑥ 保護者、地域、関係機関などとの連携を重視する視点

これまでも、進路指導は、保護者や地域の人々との連携をより深める方向で改善されてきました。今後は、具体的な活動や生徒の姿を通して、キャリア教育のねらいを社会に広く知ってもらえるよう推進することが大切です。

事例9〔中学校〕現在の進路指導の目標からキャリア教育の視点を読み取る

この中学校では、進路指導の目標を設定する際に、将来の生き方や進路を考える能力や態度の育成に着目して、全体計画を作成して実践を進めています。

■ 進路指導の目標について



事例から学ぶこと

- ① 現在の進路指導計画から、キャリア教育の指導計画へ移行する際には、育成すべき能力や態度（意欲を含む）をより具体化して設定し、諸活動を関連付けたりや位置付けたりすることが求められます。
- ② 中学校や高校では、小学校よりも個人の選択や意思決定の機会が次第に増えると考えられます。そこで、具体的に進路について考察したり、選択・決定したりするために必要な知識や方法など、生き方や進路についての学び方を重視する必要があります。